第455号

令和2年9月16日発行 净土真宗本願寺派

(2)

専徳寺



(1)



【法要の再開

〒740-0044 岩国市通津2764 ☎0827-38-1124 FAX38-1000 1) http://sentokuji-iwakuni.net/

日

時

②動画ちゃんねる「ひかりといのちきわみなき」

御 案

内

会(彼岸会)

か」、後生の一大事(わがいの先行きの見えない今こそ、 がらお勤めします。 コロナ対応は長期戦が予想されます。 秋 のお彼岸です。 規模を縮小して法座を再開いたします。 「本当にたよりになるものは 感染防止対策をしな

かりましょう。 お願いいたします。 ご本山でも法座が始まりました 「コロナ感染対策と法座の両立」。ご理解とご協力よろしく (次頁参照

(わがいのちの帰依処)

をお聞かせにあず

何

ご参拝お待ちしています。

10

9月30日(水) 昼 1

月1日(木) 朝 10)時~11: 時30分~2時30分

本 願寺布教使

ご講師

中島 昭 念 師 (美袮

市

・二日目は朝です。 両日とも一時間 (法話 席

置く。

人は、

がある。

三密回避にご協力ください。

飲み物・マスクはご持参ください。

本堂(50名)の席が一杯になれば、検温・消毒にご協力ください。 てお聴聞していただきます。 庫裏でスクリーンに

専徳寺納骨堂受付中

らい。 で自身の体調面など考慮され、 参拝の可否をご判断くだ

参拝セット どうぞお持ちください (念珠・聖典・ 式章・聴聞カード

※秋の展示会・戦没者追悼法要は今年は 中止します。

病

を指す。 **強き人」。**無病で身体の強い人、 **つあり**」、友だちにすべきでない人間の話が出てくる。 兼好法師の『徒然草』 「嘘つき」「欲深き人」に並んで出るのが「**残なく**、 の中に「友とするに悪き者

t

へたおかげで、 病気も老い 長さだけではなく幅も深味をもった境地に身を 病気で悩む人の心情を配慮できないからと思わ . ŧ 老いをただの老衰とせず、 人情の機微にふれる世界に身を置ける できれば経験したくない。 健康におごっている人 老境を味わう し か 病 身 事 を

れる。

若きはうるわし 老いたるは 女あり 二人ゆく なおうるわし (ホイットマン『草の葉』)

【法句】 ②45) 人それぞれ 書を読んでいる 良夜かな(山口青邨 今年33回忌〔12/15〕)

た

しいです」と笑顔で話 いました。本当にうれ ていただこうと決めて 必ず初日にお聴聞させ

常例布教は、感染症

新型コナ 半年ぶりに本山で常例布教



9月1日に再開された常例布教

信徒らは、総会所の入

マスクを着用した門

生まれてきたから

死ぬのだ

ド」に名前と電話番号

急連絡用参拝者カー り口で手を消毒し、「緊

を記入した後、十分に

間隔を開けて配置され

れた。

教の再開を待ちわびた れた昼座には、常例布

「信徒などが聴聞に訪

ウイルスで

死ぬのではない

第一階の総会所で開か年後2時から聞法会

では30分の法話が2席 使の小武正教さん(備 行われてきたが、感染 後)の法話を熱心に聴 にいすに座った。布教 コロナ以前は、昼座

年ぶりに再開された。 が、9月1日から約半 いた本山の常例布教 月7日から中止されて 感染症拡大により、3 新型コロナウイルス

演台には飛沫の飛散防 を設置している。 止のためにアクリル板 聴聞するため総会所

症対策のため、40分の 法話1席に変更した。 枚方市在住の門徒、東 に一番乗りした大阪府

ました。再開されたら さん(79)夫妻は「夫婦 泰之さん(74)、美代子 で再開を待ちわびてい る。

後2時から昼座、午後

7時から夜座が開かれ ームページ。 は4面、または本山ホ 講師・講題など詳細

左下に解説

死し 生きている

いのちを

真宗本願寺派 (西本願寺)

驚くことか・・



後、そして総会所で午 で毎日、御影堂で晨朝 対策を十分に施した上

げさな。そのうち慣れるよ った岩手県に住む父親か ロナウイルスへの危機感の む友人は「たった13人で大 驚いていると、 話題になった。 すまない」というメールが 宛てた

「絶対に帰るな。岩 ら、東京都で暮らす息子に 感染者が全国で唯一ゼロだ すれを感じる。少し前には **手1号はニュースだけでは** 云最多の13人の陽性が判明 た。翌日には16人。私が この危機感のずれは、 福井県では8月27日、 都市圏と地方で、 都市部に住 過



危機感の地域差



日刊県民福井 記者

見えない壁で安心している 員が東京都へ陳情に行っ いのに、「○県、きょうは 体何なのだろう。 た。北陸新幹線の建設促進 百人」はどこか他人事だ。 ○人」と報道を見ていると、 目分がいる。東京都の「○ 先日、 実際は県境の壁なんてな 福井県の県議会議

> 分の周りにリスクがあって ほしくない、安心したいと 気持ちを持ってしまう。 を聞くと、どこかに責める わざ」と責められる。 の高い行動は「なんでわざ 私自身、陽性判明の報道

然な感情が、不幸にも感染 固だ。しかし、このごく自 思うからだ。 たい。この意識はとても強 してしまった人を責める気 自分を守りたい。安心し

は「命を懸けた陳情だ」と についてだ。行く前に議員 ろうか。私にはそうは思え と言ったのだった。 い東京に行くことを命懸け ったら違った。感染者の多 言った。熱意のことかと思 何を大げさな、と思うだ

持ちをも生んでしまう。

はない。でもこの姿勢が大 の感染拡大は止まるわけで 提案し、実践したそうだ。 である東京の感染拡大を食 ることはもちろん大事なの かにも微力で、これで東京 い止めようと全国知事会で 派遣した。人の移動の中心 京都の保健所に職員2人を 貴重だ。小さなニュースだ を守ることの反対の行動は 事なのではないか。身を守 こんなときだから、 たった2人の派遣は、い 福井県は8月、東

囲の目も怖い。感染リスク 怖だ。それに、地元での周 とって都会の感染状況は翌 なかった。地方に住む者に だが、そこから一歩抜け出 てくれていると思う。 新型コロナウイルスは教え ナウイルスはこのことをは 裁く刃にもなる。新型コロ 然大切だが、それは相手を して考えることの意義を、 っきりと教えてくれる。 自分の身を守ることは当

【メッセージポスターについて】

新型コロナは教える

右の言葉は蓮如上人の『御文章』4 帖目第 9 通(『浄土真宗聖典(註釈版第二版)』1181 頁)をもとにしています。 蓮如上人がその『御文章』をお書きになったのは、延徳4年(1492)6月のことです。それは、楚病が流行して多くの人々 が亡くなっていった年でした。

『御文章』のなかで蓮如上人は、「このごろ疫病が流行し、多くの人々が亡くなっておられます。しかし、人は疫病の せいで死んでしまうのではないのですよ。死ぬということは生まれたときから定まっていることであって、それほど驚 くことではないのですよ」(取意)といわれます。思わず「えぇ?!」と思うような内容です。

いま現在、世界中で新型コロナウイルスに感染して多くの方が亡くなっておられることを思うと、たいへん厳しい言 葉です。しかし、蓮如上人は、決して、亡くなった方やその家族の心情を無視されたわけではなく、また、医療の努力 を無駄なことだとしてこのようなことをおっしゃったのではありません。蓮如上人自身、病気などで何人もご家族を亡 くされた方ですので、その悲しみは深く知り抜いておられたはずです。それを踏まえると、この言葉には、「私が、いま、 ここに生きているということの根底を見つめることが大事ですよ」という思いを受け止めることができます。

人間に限らず、この世に生まれてきたものは、いつか必ず死にます。 私たちはそれを当たり前のことと思っていますが、 実際には、それを忘れて日々の生活を送っています。いつ、どこで、どのような形で死がおとずれるかも知らず、いざ、 自分や家族に死が迫ってくると、その現実のありように恐れおののくのです。

『御文章』では、先の言葉に続いて、「そのようなものをこそ必ず救う」とはたらき続けてくださる竇弥陀さまの救い が示されています。そして、阿弥陀さまの救いにおまかせして、お念仏を申す生き方をお勧めになっているのです。

である。 られてきた自己を発見する仏縁となるの る。 をきけば長生きする」という意味ではない。 げさま」 長命であれば老いも病も山ほど経験す 長命は仏法の宝」という。 その苦悩が、数え切れないほどの によって支えられ、 勿論、 願いのかけ 「お

直枉カレンダー』平成十七年・十月

寺 内 だ ょ

み仏にいだかれて 〔葬儀勤修 b

7月28日御往生

塩中 正 様 84

喪主 塩中 和生 様

7月31日御往生

岸村千鶴子 様 喪主 岸村 悦雄 85 様

藤尾 鈴子 様 90

8月4日御往生

喪主 藤尾留美子 様

8月5日御往生

ハイランド 松村 喪主 松村 91 昇 様

8月13日御往生

様

喪主 浅林 敏彦 95 様

ついたち礼拝(月のはじめをお寺から)

11月1日(日)

午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。

8 月 14 日 往生

白田フミエ 憲光 95

様

【熊本豪雨災害義捐金】

有り難うございました

合計金額:二〇万一八二六円

16日御往生

8月

喪主 朋行

様

8月 23日御往生 青木

喪主

28日御往生

8 月

村岡 喪主 岡嶋

8 月 30 日御往生 藤生

髙重 文吉 92

喪主 高重 信江 様

ご恩を偲び【法事勤修】(7月27日~9月8日)

明夫1、 道雄25、 33 岩国 17 100 子 7、 3 岡崎則之50、 武 夫 33、 通 100 原多信子10、 【市内】尾上啓二1、 大﨑三雄**50**·100、 金子嘉男25、 浅田知明33、 吉柴伸一7、 栗津節子10、 米本忠孝1、 内山克則3・7、 【県外】藤谷美子1、 【 青 木】 近藤美奈子17、【保津】藤本 賀屋保則1、平中哲夫13、 【黒磯】周管雪江33、 森上敏雄10、 高田紀子1、 西宮良子3、 重村準二3、 【六呂師】蔵田サチ子 米川美奈子3、 白井由紀子25 村重学1、 呉田 岡林悦香 岡部美代 岸村 初 悦

輝正 様 79

石中アイ子 様 95

石中 良和 様

りました。

正昭 様 $\widehat{72}$

淑子

様

新調 鐘楼の撞木

させていただきます 新しくなりました。このたびの法座より使用 昨年の「除夜の鐘」で欠損した撞木が、



ためた五円玉を持参くださった方も



〔寄贈:小方茂生・麻紀子 ご夫婦〕